

第6回さくらピア避難所体験

平成26年9月27日(土)28日(日)

実施報告書



①講演・避難訓練	…	196名
②防災ラジオドラマ	…	61名
③宿泊体験・非常食試食	…	54名
④まとめと講評	…	37名
		<hr/>
	計	348名

参加者内訳

障害種別		27日			28日	合計
		①講演・避難訓練	②ラジオドラマ	③宿泊体験	④まとめと講評	
障害者・ 家族（当事者）	身体	30	4	3	4	41
	重身	5	1	0	0	6
	内部	1	1	0	1	3
	聴覚	8	11	7	3	29
	視覚	1	2	0	1	4
	精神	2	1	3	1	7
	知的	7	3	4	2	16
	発達	0	0	1	0	1
	家族	24	4	6	4	38
	小計	78	27	24	16	145
一般	介助	2	0	0	0	2
	ボラ	31	15	5	4	55
	看護師	0	0	1	0	1
	議員	4	1	2	1	8
	民生	3	0	0	0	3
	社協	1	1	0	1	3
	市職員	18	3(5)	1(神戸市)	6	33
	その他	50	6	16	7	79
	さくらピア	9	3	5	2	19
	小計	118	34	30	21	203
合計	196	61	54	37	348	

参加総数348名（前年：313名）、うち障害者145名（前：174名）、一般203名（前：139名）。今年は開催にあたり参加者を「どなたでも」としたため、一般参加者が大幅に増加した。今回は「防災まちづくり大賞総務大臣賞」、「防災功労者内閣総理大臣表彰」受賞による全国規模での認知度上昇の結果、神戸市（市職員）、大学研究者、広島市（防災用品販売会社）の参加等、広域かつ多様な関係者の参加が印象に残った。

障害種別には、聴覚障害者が増加（前：11名）したが、他は伸び悩んだ。一般参加者との協働・当事者への更なる周知啓発に向け、当事者参加を積極的に促したい。

内容別には、昼間の部（①講演・避難訓練）、③宿泊体験が増加した。③宿泊体験については、一般参加の子ども10人を含む近隣の校区住民が参加し、運営協力等を得た。②夜間の部（防災ラジオドラマ）は人数こそ61名だが、当日は非常に活発な意見交換がなされた。その他、聴覚障害者出張理容室、宿泊の準備・後片付け、朝食調理班の形成等、前年に引き続き、「障害の有無を問わず参加者が主体となって行動する」機会を提供した。

①避難訓練における「車いすダンス」のほか、②防災ラジオドラマ、③宿泊体験等についても、障害者の参加自体が内容充実大きく貢献する。今後、同様の参加型訓練を実施するにあたり、幅広い障害種別から新規参加者の掘り起こしを図りたい。

講演「地域防災と障害者」

豊身協 前田宣雄

豊橋市消防団長・松下直弘氏のお話でした。平成16年以降、社会福祉法人・岩崎学園理事長を努めながら、12年間多米分団に籍を置き、現在は豊橋市消防団長を務めておられます。

消防団について、消防署と比較しながら、プロジェクター・映像を使い、日頃の活動・訓練を紹介して頂きました。地域の火災現場では消防署と共に消火活動に努めますが、日頃は会社員、自営業、主婦でもあり、災害時に十分な活動ができるよう、消火・救助・応急救護などの訓練を行っています。消防団は53分団、団員1216名、平均年齢32歳、平均在籍年齢4.4年、普通車66台と軽四14台が配備されています。



障害児者との関わりでは、ヘルプカードの利用、自助と共助を合わせた共同が重要と話されました。近所の消防団員と日頃から親しくし、障害を理解していただくことが重要です。地域での人間関係が薄れ、消防団への関心も強いとは言えない現状と問題点を改めて考えさせられました。

私の校区でも消防団の車が冬季に「火の用心」と巡回していますが、第18回防災まちづくり大賞で総務大臣賞を受賞した大分県佐伯市向島では園児・小学生が11月から3月まで、毎週1回、拍子木を鳴らし火災予防を唱える活動で地域のつながりを強めていることが紹介されていました。

消防団の活動も地域の縦横のつながりを強めます。団員同士大いに酒を酌み交わし親睦を深めて下さい。私達も消防団員の志に心を寄せ、地域社会への関心を強めましょう。

車いすダンスSHOW & 逃げましょう！

さくらピア事務長 本田栄子

毎週さくらピア体育館で練習をしている車いすダンスのグループ12名に協力していただき、ダンスショーの最中に災害が発生するという想定で訓練をした。

他の建物や教室などでは「机の下などに体を入れて一時待機」の指示をするが机が無い体育館ではどのようにするのか、事前に危機管理監にお聞きした。まずは壁際へ、さくらピアのランニングコースは構造がしっかりしているのでランニングコースの下でも問題ない、明りとりガラス天井の下を避ける、落下しそうな照明器具の真下を避けるなどのアドバイスをいただいた。

また非常口は地震によるゆがみで開かなくなることがないように早めに扉を開いておくことも学んだ。アンケートに、足か目が不自由な女性に近く的女性がかけよる姿が見えたと言われていた。声をかけながら避難できるようになるといいと思う。初期消火については、片手で使える消火器が欲しいとの要望があった。

車いすダンスをはじめて見た人も多く、好評だった。障害者の積極的な活動の姿もみていただいたことも意義のある企画だったと思う。



参加者アンケート（1/3）

①講演・避難訓練

- 車いすダンスを初めてみましたが、生き生きとしたダンスに感動しました。防災ラジオドラマがどこかで発表できるといいと思います。避難訓練では、足もしくは、目の不自由な人が取り残されましたが、すぐに近くの女性が駆け寄り、肩を貸して、スムーズに避難されたのが、素晴らしい光景でした。話も分かりやすい。
- 実際に大地震で、避難する場合は、拡声器 or マイクではなく地声で、避難誘導すると現実味があると思う。反響して、避難誘導指示がうまく把握できなかった。
- 消火器訓練が初めてやれてよかった。
- 車いすで、軽快に踊っていたのが驚きました。
- 防災グッズをもっと見たく、参考になった。
- 講演の話だけでは物足りず、質疑応答等があったほうがよい。
- 講演の時、マイク及びコードの関係か声が割れて、話が聞き取りにくく、液晶プロジェクトが読めなかった。手話通訳だけでは解からない。
- 松下さんの講演が面白くて、とても良かったです。地域の消防団の減少を耳にし、対策をお願いします
- 車いすダンスの息のピッタリと合ったしなやかな動きが素敵でした。毎年参加し、違った内容で勉強になります。
- 煙体験、簡易トイレを初めてみました。又、車いすダンスも華やかで楽しかったです。
- 中高生の参加が少ない。
- 災害時のことを考えることができ、車いすダンスも良かったです。
- 体験したことは、何かの役に立つと思います。
- 訓練地震では、車いすダンスのフィナーレ中に赤ランプが点滅し、木のテーブルの下に避難することができ、公園避難まで、10分以内にできました。
- 初めての体験で、勉強になってよかった。壁側の避難を覚えておきたい。
- 来年は、宿泊体験をしたいです。今後は、もっと勉強して、自分の身の回りでも活かしていきたいです。

参加者アンケート（2/3）

②防災ラジオドラマ

- 初めての試みで面白かったです。特にシナリオ作りの過程が面白かったです。
- 実際の事を皆で想像しながら作りましたが、おそらくこんなにスムーズには進まないだろうと思った。
- 新しい企画で面白かったが、難しかったです。
- 他のグループはリアリティがあって、良かったです。
- 色々な視点から防災の事を考える機会となりました。
- 実際の現場に立ち会った時は、自分が困っている方にできる範囲で協力していきたいです。
- 障害の当事者で作った想定シナリオで、何種類かの想定パターンを知ることができました。
- こんなところ、あんなところに気づきがあって良かったです。
- 宿泊体験は出来ませんでした。避難袋を持ってきました。準備が不十分な事に気づきました。古い電池が切れていたことにも、もっと準備点検した方が良かったかなあと思いました。
- とても楽しかったです。
- 短い時間で、初めてお会いした方と協力し、地震等の震災の状況を想像しながらみんなで、セリフを考えました。障害があることで、迷惑がられるから避難は難しいと考える人は、多いと思います。防災ラジオドラマ作りの内容を、色々な人に知ってもらいたいです。
- 参加して、いろいろなことが起こることを実感しました。
- 1時間30分は長いと思っていましたが、全然時間が足りなかったです。
- 障害者の生の声が、発災時の対策に活かされていないと感じた。又、要援護者対策が、対象の要望に沿ったものであるかの確認が必要であり、障害の方と地域のつながりが希薄なのかと感じた。
- 実際の震災を想像しながら、色々な意見があって面白かったです。
- 防災ラジオドラマは、想像力が必要なので、難しかったです。
- グループで同じテーブルに参加できたので、話のまとめに参加しやすかったです。災害時にどうするのかという想定シナリオのせいなのか、同じグループで、初めて顔を合せた人ともスムーズに話し合いができた。「第一避難所」「自主防災会」「避難所要員」等の防災、避難所の基本的な事を知らない事を再認識し反省しました。他の障害の方のグループ発表でも、非常に困難が多いことを感じました。
- 実際の避難所運営は、解決しにくい問題ばかりだと思う。
- 手話を言葉にしたのを初めて聞きました。話し手の表情が豊かなのに驚きました。
- 防災ラジオドラマが、どこかで発表できるといいと思います。

参加者アンケート（3/3）

③宿泊体験・非常食試食

- 解かったことがたくさんありました。今後考えなければいけない点もたくさん見つかりました。
- 良い経験になりました。楽しかったです。
- 避難所体験は、先駆けとして、モデルケースです。
- スタッフ一同に感謝です。
- 非常に貴重な経験ができました。一般の方と障害のある方とどちらも入って頂き、協力し合う事で、避難所の運営が成り立つと感じました。
- 要援護者のみの避難所は成り立たないと感じました。
- 受け入れ者の割り振りは難しいがとても重要で、市がうまくできるかが不安です。
- 知的障害者は、普段利用している施設で受け入れるべきと思います。
- 宿泊体験は、親子でいつもながら快適に眠れました。災害に遭えば、家の事、家族の事、将来のことを心配して寝付けない夜を過ごすのではないかと思います。余震の事に怯えながら少しマンネリ化している親子です。
- 非常食試食体験では、息子はおかゆが嫌いなのですが、ここでは食べる事ができます。具沢山のお味噌汁や温かいおにぎりもあって、とても良かったです。お味噌汁を作るのは大変でしたが、楽しかったです。又、いろいろな世代が一緒になって、和やかに作ることができました。本番になった時心配です。
- 避難所での摩擦を少なくするために、ルール設定をする必要があると感じた。何週間も避難所生活が長期化すればストレスが溜まり、心のケアも重要です。
- 困っている時こそ他者を受け入れる寛容な心がけをしたい
- 避難所体験を通して、様々な人と出会えることができ、ボランティアの人の話を聞き興味を持った。今まで地域との関わり合いが無く、今回の経験を今後に役立てたいです。今後もいろいろなイベント、体験などに参加したいです。
- 物品の片付け指示が分からなくて、受付まで聞きに行った。さくらピアの職員の方は、腕章等を付けるなどして分かりやすくしてほしいです。福祉避難所は、2次避難所となっており、一次避難所と同じ扱いをしてほしいです。
- 窓からの街灯がまぶしくて寝ることが出来なかった。体育館の避難所体験は、はじめての体験でした。人の声で寝れなかったです。
- 参加した人は素早く片付けをし、実際震災が起こるとパニックで、絶叫してられないと思う。
- 実際の避難所では、マットが無いので、マットは無くても良いと思う。ダンボールベットの起き上がる楽なので、高齢者等には良いと思う。数が限られているので、取り合いになるのが心配です。

④まとめと講評 議事録

本田（さくらピア事務長）

おはようございます。ほとんどの方が宿泊体験に参加された方だと思います。みなさん、二日間の避難所体験、お疲れさまでした。

さきほど看護師さんの健康チェックがありました。みなさん元気に過ごされたでしょうか？今年はフットケアもして下さったそうでよかったです。

それでは参加者のみなさんから、二日間の反省と講評をいただきたいと思います。しっかりとみなさんの意見をお聞きし、記録することで、体験した人だけでなく、いろいろなところにつなげていけたらいいと思います。まずは豊障連会長の山下より、ごあいさつ申し上げます。

山下（豊障連会長）

みなさん、おはようございます。昨日はゆっくり眠れましたか？

今回は50人近い人が泊まって、体育館がいっぱいでした。はじめての人にとっては、体育館で寝るのはけっこう難しくて、知らない人どうして泊まることに緊張もあったと思います。2回目以上の方は、だんだん慣れてくるのかな、表情にも余裕があるみたいです。ただ、昨日の夜は冷え込んだようで、一部のお母さんから、娘が、鼻がぐずぐずになったとお聞きました。帰ってから気をつけて、ゆっくり休んでください。

それと、昨晚の「ラジオドラマ」についてですが、東愛知新聞の記者さんが、「せっかく作るんだから、豊橋市の中で発表ができればいいね」と言ってくれました。実現できるかどうか分かりませんが、いろんなところに発表できればいいかなと思っていますので、そのときはみなさん、快くOKを出していただければと思います。

本田

それでは今回のご講評者から、ごあいさついただきたいと思います。

松井(晴)（豊橋市社会福祉協議会事務局長）

みなさん、二日間ご苦労さまでございます。前日は参



加できなかったですが、内閣総理大臣表彰をいただけるだけのことはあると思います。今回の新しい企画である、「防災ラジオドラマ」のシナリオも今日朝じっくり読ませていただきましたが、どのグループも大変臨場感のある構成で、実際の避難所の場面がイメージできるものです。避難所体験は毎年さまざまな工夫をされているかと思いますが、今回も、従来とはまた違った視点で取り組まれていて、感心しました。本当にご苦労さまです。



木村（豊橋市福祉政策課長）

福祉政策課の木村と申します。私は一昨年の避難所体験で講評させていただきましたが、今年は、一日目の「講演・避難訓練」に参加しました。イベント中に災害が発生するという設定でしたが、みなさん落ち着いて避難されていて、私も感心しました。



こんなことを言うのもなんですが、本来は災害が起きないのが一番です。しかし、起こってしまった場合に冷静な行動がとれるよう、訓練を通じて、心がけていってほしいと思います。

佐藤（豊橋市障害福祉課長補佐）

二日間、お疲れさまでした。私は、今回初めて避難所体験に参加し、一日目の「講演・避難訓練」、夜の「防災ラジオドラマ」を見させていただきました。特にドラマ作りは非常に実践的な内容で、災害時のシミュレーションとして、大変に効果のあるものだなあと実感しました。ぜひ、来年以降もこのような取り組みを続けていただきたいと思います。お疲れさまでした。



本田

それでは、参加者お一人ずつからご意見・ご感想等お伺いしたいと思います。まずは初参加の方から、訓練全体を振り返って、印象に残ったことをどうぞ。

星野(父)（一般）

私は二日間、息子と参加しました。息子も、障害者と接する機会は今回がはじめてだったと思います。訓練を校区で開催できていないし、防災学習を含めて、避難所体験に参加させていただきました。



今回参加して、やはり大人として、災害に備えて準備をしているつもりでも、どこか「地域や行政に頼ってしまっているな」、「もっともっと自分自身で準備しないと

いけないな」と思いました。

体育館での宿泊については、まだまだ場所に余裕のある状態でしたが、避難者が増えたとすると、摩擦やトラブルが出てくるかと思えます。そうした場面で、自分に何ができるのかを、もう一度考えさせていただくいい機会となりました。



星野(子) (小学4年生)

昨日今日と体験してみて、こういうこと(災害)があったら嫌だなと思ったので、準備とか、災害がいつ来てもいいようにしておきたいと思いました。朝の非常食はおいしかったです。おかゆは、はじめは味がなかったけど、下に梅があったのでおいしかったです。



松井(真) (豊橋市障害福祉課主査・福祉避難所要員)

障害福祉課の松井と申します。今回初めて、避難所要員として参加させていただきました。

「防災ラジオドラマ」では、障害別のグループを見て、たくさんの「気づき」を得ました。私は福祉避難所要員として、有事には避難所の運営に従事することになりますが、市の要員全員が、この「気づき」を共有する必要があると思いました。



総理大臣賞受賞とお聞きして、神戸市の職員の方も、今回の避難所体験に参加しているとお聞きしています。私自身も、自分自身何ができるんだろうかと考える機会になりました。

一日目の講演で、松下消防団長から、「日常の中で非日常を体験することが安心につながる」という言葉がありました。例えば実際に訓練に参加して何か行動したり、お話を聞くことで、意識が変わるということを実感しました。



本田

今、松井さんから避難所体験の「気づき」を避難所要員全員が共有する必要があるという意見をいただきましたが、避難所要員さんは豊橋市内で何名くらいいらっしゃるんですか？

木村

まずは第一次避難所ですが、みなさんご存知の、一番身近な小学校区に設置されている校区市民館・地区市民館です。風水害が起きた時などに行っていただくことに

なりますが、全部で70か所です。それから第二次避難所として、小中学校の体育館95か所が指定されています。例えば、南海トラフなどの大地震が来ると、第一第二合わせて165か所の避難所が、一斉に開設される予定です。

それと、福祉避難所というのは、一般の避難所では長期間生活できない方が行くところですが、市内に9か所あります。

避難所要員は全体で420人弱で、福祉避難所には各2人ずつ、計18人の市の職員が位置付けられています。



本田

それではさくらピアのご近所さん、お泊りは初めてですね？

室田（近隣住民独居80代）

はじめて参加させていただき、いろいろ勉強になりました。夜の宿泊では散髪もしていただき、ありがとうございました。



氏原（近隣住民80代）

ほんとに、80になってがんばりました。夜もよく眠れました。ありがとうございました。

本田

今回は初めて、参加対象を「どなたでも」として、校区に回覧板を回していただきました。お子さんを連れた校区の一般の方がいらっしゃって、障害者の方を手伝ったり、一緒に作業していただけでよかったです。



菊池（神戸市職員）

神戸市保健福祉局の菊池と申します。二日間の訓練を通じて、たくさんの「気づき」をさせていただきました。

もともとの体験訓練は「障害者をお客さんにしない」というスタンスで実施していると伺っていましたが、実際に夜の宿泊で体育館に入ったときは、「どこに寝ればいいですか」と聞いてしまいそうになりました。ですから「みんなと相談して」と言われて、あらためて気づかされました。

今後の市の仕事については、まだまだ考えをまとめきれず、感想ということになりますが、まずは障害のある方と、一般の方を組み合わせるかたちを考えてい



きたいと思っています。やはり障害者だけでは、例えば実際に避難所の運営が成り立つのかなという不安もありまして、うまくそういう方々を組み合わせたいと考えています。

それと、重度の方はすぐに分かりますが、軽度の方は見た目だけでは障害が分かりづらく、サポートしたくてもこちらからは声をかけづらいということもあります。ですから、「私はこのような支援が必要なんです」と自分から発信していただくことが必要になってくると思います。

また、荒木さん、知的障害の息子さんを持つお母さんですが、この訓練の中でもバリバリと即戦力で動いていました。しかし、実際お子さんがパニックになっているときにそれは難しいと思いますので、そういう場合は、市としても、なるべく普段利用されている施設に入っただけのようなシステムが必要なのかなと思います。

それと、今回参加された方は、みなさん防災意識が高くマナーもありましたが、実際には身勝手な人やマナーの悪い人もいます。ですから神戸市でも同じような取り組みができるなら、さらに負荷をかけていく訓練、例えばトイレが使えなかったり、文句を言う人が出てきたりするなど、いろいろ条件をつける方法を取り入れたら面白いのかな、と思います。

神戸市も阪神淡路大地震から20年が経過しており、市の職員の半分以上が、そして私自身も震災を経験していません。震災の引き継ぎが難しくなってきた中、今回はいい経験になりました。やはり、市の職員が訓練に参加するのは大事なことだと思います。ありがとうございました。

本田

神戸の震災の時は、私も若かったのでボランティアに行きました。

私は聴覚障害者の手話通訳支援に協力しましたが、地元の聴覚障害者が、遠方からきたボランティアのために食事などの世話をしてくれていました。「障害者もできることをしよう」と働く姿はとても印象的でした。あれから20年ですか、ありがとうございました。

垣野（一般）

今回初めて参加しました。こういうリアルな経験というか、自分で体験するという機会はなかなか無いのでよ



かったです。

私は普段、建築関係の研究をしまして、具体的には、小中学校の校舎などの建物を、避難所としてどのように使うか、さらには第1第2第3の避難所の使い方どのような差をつけていくか、などということを考えています。まだまだ頭の中でまとまっていませんが、避難所ごとにキャラクターを変えないとお互いに特徴が出ないのかなあ、と思っています。ありがとうございました。



山下（女性）

今回が初参加です。私は「防災ラジオドラマ」からの参加でした。

私自身、阪神淡路大震災を、尼崎で経験しています。当日は停電で真っ暗闇の中、体育館で寝たのを覚えていて、その印象のまま体育館に来たので、今回は窓から入る街灯の光がまぶしくて逆に寝られなかったです。



あと、被災したとき、当事者やお子さんを連れた弱い立場の方々に対する配慮のしかたというものを、ラジオドラマで実際に文字に起こすことで少し学べたのがよかったですと思いました。

本田

山下さんは朝食準備でも、調理班としておにぎりを作ってくれました。ありがとうございました。

跡見（手話サークル）

今まで避難所体験が開催されていることは知ってはいましたが、今回初めて参加できてよかったです。私は夜からの参加で、体育館で寝たくて参加しました。思っていたよりも快適に過ごせてしまいましたが、本当の災害のときは、こんなもんじゃないんだろうなと思います。



体育館には仮設トイレが置いてありましたが、自分が使うとなると不安です。ですから例えば、外のマンホールを使ってのトイレ、そういうほうが使いやすいのかもしれないと思いました。

それと、ベッドを作ってくれた小学生の星野君が、「このベッド、空いてますよ」と私に声がけてくれました。やっぱり声をかけてもらえるのは嬉しいことなので、私も今後は自分から、どんどん声をかけて行こうと思いました。



「防災ラジオドラマ」にも聴覚障害者グループで参加しました。はじめはイメージがつかめず、どう作ってい

いのかとまどいでしたが、困ったことがあったとしても、それをどう文に起こしていくかが難しかったです。

新谷（豊聴協会長）

まず一日目の「消防団長講演」ですが、地域防災の話で、はじめて聞くテーマでした。地域の消防団と消防署の違いや、消防団の活動の様子がよく分かりました。

次に、「車いすダンスSHOW」ですが、ダンスの途中で避難するというので、私たちも指示にしたがって避難しました。7分くらいで避難できたようで、よかったです。

「防災ラジオドラマ」は、聴覚障害者は二つのグループに分かれて作りました。手話サークルの会員と話しあって、よくできたと思います。完成した原稿を、聾者が手話で発表できたこともよかったです。

私は宿泊の準備の様子を見て、都合で消灯時間に帰宅しましたが、もし参加したら、体が痛くなったりするのではと思います。聾者の出張理容室もあったので、聴覚障害者も訓練に協力することができました。



浅倉（豊聴協）

浅倉といいます。昨日の夜の「防災ラジオドラマづくり」での参加者の受付の際の話ですが、行事などで顔なじみの人は、職員の方もあらかじめ知っているのでも、顔パスで簡単に済ませてしまいます。でも、もし実際の避難所だったら知らない人が受付なので、このような訓練のときも、普段から一人一人自分で名前を書くことが大事なのでは、と思いました。

先日の豊橋市の防災訓練でも、実際に汐田小学校で話を通じない、とても時間がかかるという経験をしたばかりです。顔見知りが多い環境に甘えず、聴覚障害者も、一人一人自分で書類に書くよう心がけようと思いました。



本田

ありがとうございました。さくらピアの行事だと、知っている人が受付なので顔パスできますが、実際の避難所のように、知らない人が受付だと想定して、慣れていけないといけませんね。

それから、昨夜の「防災ラジオドラマ」での聴覚障害者のグループの発表で、「防災絵カードを70か所の避難所に配った」とのことでした。これはさくらピアにも配られているカードです。それと、これはコミュニケーション



ョンボードで、いろいろな文章が書いてあります。これを市内の避難所に配りに行った、ということですね。

木村

市のほうに、聴覚障害者の方と手話通訳者の方が見えて、防災窓口を通じて配布させていただきました。昨年度は9か所のみでしたが、今年も同じものをいただき、市内の第一次指定避難所70か所すべてに行き渡りました。

本田

そのような絵カードやコミュニケーションボードのことも、贈呈した人だけでなく、周りの人、例えば避難所要員も知っていて、「こういうものをもらってるかね、どこにしまっておくかな」と日ごろから話題にさせていただくことも必要だと思います。

あとは、複数回参加されている方の意見を聞きたいと思います。



鈴木（育成会）

私は一回目の避難所体験から参加しています。毎回、避難のしかたも工夫をされていますが、今回は車いすダンスの発表の途中で逃げるという設定でした。2、3年前の「夜の避難訓練」のときは、サイレンが鳴った時点で浮足立ってしまっていました。それ以降は、あわてず指示を待って、壁際によって待機する、そうした指示をちゃんと聞くことができました。こういう経験を積み重ねていくのが大事だと思っています。



「防災ラジオドラマ」も初めての試みでした。うちの子は知的障害ですが、見た目では分かりません。そのあたりをどう回りに理解してもらうかを切実に考えました。面白いというのも変な話ですが、現場の様子を、イメージを膨らませて文章にするという体験ということで、充実した内容だったと思います。



宿泊体験では夜は冷えたので、娘が風邪気味になってしまいました。私も眠れたつもりでしたが、あまり眠れませんでした。日によって寒かったり暑かったり、いろいろ大変なんだなと思いました。

朝の「非常食準備」では、同じ訓練を積み重ねてきたこともあって、スムーズに取り組むことが出来たと思います。おかゆは、実際にはおいしくはないのかもしれませんが、避難所で食べられるのならありがたいことだと



思います。味噌汁はおいしかったです。

本田

朝食づくりは、一年目は私が全部仕切りましたが、去年も今年も、私自身は厨房に入らず、すべて参加者に作っていただいたので、とてもありがたかったです。

参加者の方からも「これはどうする？」と聞かれたりしましたが、「みなさんで考えてください」と答えて、あえて指示は出しませんでした。避難所を運営するには、その場に集う人たちの、とっさのチームワーク作りが大切だと思います。



後藤（豊身協）

豊身協の後藤といいます。私はこの場で毎回同じことを言っていますが、前回よりも今回と、回を重ねるごとに、「自分の命は自分で守る」という意識が強くなってきています。このような訓練は、年に1回だけではなくて、2、3回と行ってくださるともっといいと思います。



本田

さくらピアでそう何度も実施することはできませんが、例えば、あイトピアとかはどうですか？

松井(晴)

現時点では、あイトピアのほうで泊りがけで行う、ということまでは考えていません。あそこは障害者よりも、高齢者の利用のほうが圧倒的に多い場所になっています。今日のお話にもありましたが、軽度・重度の障害に合わせたサポートをどうやるのか、そのあたりが難しいかなと考えています。

それとは別に、災害ボランティアの立ち上げ関係については、あイトピアが活動の中心となっている状況です。あイトピアでの訓練については、今後検討させていただきたいと思います。



本田

さくらピアでは法定で年2回の訓練があり、冬には半日だけの避難訓練を行っています。そのような中で、効果的な実施方法を提案していくのも必要かと思います。



小川（豊身協）

今まで何回も参加させていただき、訓練の環境にも慣

れました。体育館での宿泊は初めての経験でしたが、自分の家よりもよく寝れたぐらいです。テープはがしなどの後片づけも少しうまくなってきて、自分でも天狗になって、人に声をかけたりしました。とりあえず、人に話しかけることができ、よかったです。

本田

今日は避難所体験終了後、さっそく体育館にテニス練習の予約が入っているので、「すいませんが片づけを先にお願います」ということで、参加者みなさんが協力しながら、スムーズに動いてくれました。ありがとうございました。

前田（豊身協）

今年は、特に「防災ラジオドラマ」の設定のしかた、発表のしかたを見て、訓練の内容も参加者の取り組みかたも、年々進んできているなと感じております。

神戸市の方もおっしゃっていましたが、サポートが必要な方は「自ら発信する」というのが重要です。さきほどの聴覚障害の話の中で、絵カード・コミュニケーションボードというものが出ていました。もちろんそれもいいですが、現実には、その存在もすぐに忘れられてしまいます。

私は豊身協の聴覚障害者には、有事の際には、体の前後に「耳が聞こえないことを示す張り紙」をしてくれと言っています。それがもっとも簡単で、避難所のみんなにもよく分かる方法だと思います。防災ラジオドラマには、指文字の話が出ていましたが、その場合も、例えばこういうコミュニケーションしかできない、ということを示す何かを普段から準備しておくことが大事でしょう。

今年5月のプラットでの「避難訓練コンサート」には、豊身協からも難聴者が1人出席しました。そこでは、訓練には聴覚障害者も参加しているということを示すために、避難訓練でサイレンが鳴り非常放送が入り、全員が会場から出て行ってしまった後でも、その聴覚障害者は、あえて最後まで席に残っていました。そこに係りの人が駆け寄ってきて「どうしましたか？」と聞かれましたが、「私は耳が聞こえません。放送の指示が分かりません」と答えたそうです。

少し意地悪いやり方かもしれませんが、このように、「障害者から理解を求めていく」という努力を重ねていきながら、何かの際に、しっかりとした行動がとれるよ



うにしていかなければならないと思います。

本田

今回の「車いすダンスSHOW & 逃げましょう！」は、プラットでの避難訓練コンサートをアレンジして企画させていただきました。

障害者が集う場での訓練もちろん大切ですが、一般の方ばかりが集うほかの避難訓練でも、主催者や参加者に対して、障害者の存在をアピールしていくことが大事だと思います。



荒木（育成会）

育成会の荒木と申します。今回で初回から6回目の参加です。

今回やはりよかったと思うのは、「防災ラジオドラマ」です。私たち知的障害者の家族も、はじめはどうしていいかわかりませんでした。神戸市の方に助けられながら、何とか話を組み立てました。内容自体もとても参考になりました。知的障害といっても、いろんな障害のある子がいるので、そこを想定して作ることができればと思います。



「宿泊体験」は、私も息子を連れて毎回参加しています。余震があったり、雨が激しくなって水が流れてくるだとかを想定すると怖いですが、いつも使う施設なので、快適に寝させていただきました。息子も何度も経験しているので、さくらピアの体育館の宿泊に慣れてきてしまっていて、これではかえって参考にならないくらいです。



ですから、育成会の会員にも参加を呼び掛けていますが、「うちの子は無理だから」という返事になってしまいます。そういう会員さんたちに、もっと宿泊に参加していただくためにどう説得すればいいのか悩んでいるところです。避難所生活は、頭の中でいくら想像しても分からないものだと思うので、そのための訓練はとても貴重です。何とか育成会の会員に伝えていきたいと思います。

朝の非常食作りも、「さくらピアだから息子をほかっておいても大丈夫」ということで調理を担当できましたが、他の場所ではとても無理だといつも思います。

厨房ではいろんな世代の方が一緒になって、あれはどうこれはどうと、いい連携がとれて、今回もとても楽しくできました。実際の現場では、もっと殺気立ってこんなもんじゃないんだろうなとも思います。



それと、他の人が言ってましたが、「さくらピアの職員

さんがどの方なのか分かりづらい」との声があり、どの人に声をかけていいか分からない、ということでした。

あと、今年は、市の避難所要員さんはいらっしやらなかったのでしょうか？ここは私の地区ではないので、知ってどうということはないのですが、実際の避難所要員の方を見聞きして知ることができれば、声をかけやすくなると思います。



本田

今年の宿泊体験では、豊橋市の避難所要員の方は参加されていません。私も神戸の震災でボランティアに行った際、市の職員に担当者を聞こうと思いましたが、みんな栃木だとか群馬だとか、よその人で、地元の職員さんはなかなか見つからなかったのが印象に残っています。



工藤

私は視覚障害者なので、その立場からお話しさせていただきます。

この訓練には視覚障害者があまり参加していないので心苦しいのですが、見えないということで、例えば避難所では掲示板の字なども読めないですし、周りの人に声をかけるのもなかなか難しいことです。実際にはいろいろな人がバタバタしているでしょうし、視覚障害者は人数が一番少ない障害だと聞いているので、いろいろ大変だと思います。



それと、私は最近引っ越したので、地域の防災訓練とか、どこかで災害が起こったときにどこに逃げたらいいのかということ把握してないのですが、それはどこに分かるのでしょうか？御嶽山が噴火したが、自分も少し用意しなければとあらためて思っています。

本田

昨日の「防災ラジオドラマ」には視覚障害の方2人に参加していただき、初めての場所では付き添いが必要だとか、積極的に意見を述べてくれました。詳しくは報告書をご覧くださいと思います。

それと「自分の避難所はどこで教えてもらえるのか」ということですが、どうでしょうか？



木村

私の記憶で申し上げますと、それぞれの避難所は「広報とよはし」の年一回9月の防災特集などに一覧表が載っ

ているかと思います。点字版でどれだけの情報が載っているか分かりませんが、また私の方で確認させていただきます。

それと、民生委員というお話がありました。ご近所の方がいればその方に聞いていただければいいですし、もちろん市役所にお問合せいただいてもかまいません。ちなみに、先ほど申し上げたとおり、校区市民館・地区市民館があればそこが第一避難所、小中学校があればそこが第二避難所です。



本田

今年の松山校区の防災訓練は、「各町内から車いすで学校に向かう」という内容を企画したそうで、さくらピアから車いすを貸し出しました。各校区の自主防災組織がこのような取り組みを少しでもやってくれるようになったのは、大きな進歩だだと思います。実際に自治会町さんとお電話でお話しましたが、他の地域のみなさんも、このような企画が行われているということ、自分の校区でも提案していただければと思います。



森下（一般）

今回で3回目の参加です。私はアウトドア好きで、自分ひとりならテントや車中で何日か生活するのはいいのですが、母が高齢の身体障害者なので、このような場所がうまく運営されていると安心できます。

例えば真夏、台風シーズン等の悪天候のときなどに、こういうことが起きたらどうしようとか、あらためて考えさせていただくことで、自分なりに防災用品などを取りそろえていこうと思いました。

それと、「防災ラジオドラマ」に参加して思ったのですが、知的障害、難聴といった障害者のほかにも、アレルギーを持っている方など支援を必要とする方もいらっしゃると思います。その場合は、例えば、小麦・卵・牛乳・エビ・カニ、この食材がダメですということも、注意しないといけないのだなと思いました。

ラジオドラマのはじめには「自己紹介カード」を記入しましたが、そういうものをしっかり活用して、「私はアレルギーですよ」とかアピールしていく必要があると思います。



中神（父母の会）

今回は宿泊体験に参加できませんでしたが、いろんな

体験をさせていただいて、企画内容が素晴らしいなあと思いました。避難所体験に参加すると、例えば「こういうものを用意しておかなければ」というような、毎回何かしらの「気づき」があります。こういった訓練は今後も必要ですし、これからもぜひ続けていただきたいと思います。

本田

先日、「全国肢体不自由児父母の会全国大会」が豊橋で開催され、そこでさくらピアの避難所体験を紹介させていただきました。私からも少し話をさせていただきましたが、全国から反響がありました。

みなさんも、何か大会やイベントなどを開催するときに、さくらピア避難所体験のことを取り上げていただければ、また新たなつながりができていくと思います。

西尾（豊橋市障害福祉課長）

障害福祉課の西尾です。この訓練の一番いいところは、今朝の新聞記事にも載っていましたが、「**障害当事者が主体となった防災訓練**」だということです。

さきほど「防災ラジオドラマ」についてシミュレーションのお話がありましたが、みなさんご自宅をイメージしていただきたいと思います。

この東三河地区では震度6強、7が想定されているわけですが、いろんなものが飛んできたり、ガラスが割れたりというシミュレーションを頭の中でしてもらって、まずは「自分がケガをしない、自分が被災しない」ということを第一に準備していただきたいと思います。

そして非常食も、「最低3日分ぐらいを用意はする」ということが大切です。避難所体験の機会に、もう一度家の中を点検していただければいいと思います。

塩田（6歳・1歳の子どもと一緒に参加）

下の子が1歳8か月になり、やんちゃ坊主がエスカレーターしてスーパーに行くのも大変です。今回の「宿泊体験」では、10時に消灯してから走り回って奇声を上げるので、一度児童保育室に行き、おもちゃで一時間ほど遊びました。さすがに上の子もくたびれて、体育館で一人で寝始めた後、11時くらいにようやく落ち着いて、寝かせつけました。

「防災ラジオドラマ」では、基本設定は12月ということでした。もしさくらピアで災害があったら、児童保



育室などがあるのでいいですが、実際の避難所の体育館の外はすごく寒いだろうし、毛布一枚あるかないかの中で、子どもをあやすことになれば大変だろうなと思いました。

それと、「プレイコーナー」のような、子守やおもちゃのスペースがあるといいと思いました。例えば歯医者などで、待合室にプレイコーナーがないと子どもが騒いで「声を下げてもらえないか」注意されたりするので、避難所にも、子どもにとってのバリアフリーが必要かと思っています。

また、荒木さんから「知的障害者のいろんなバリエーションを想定したい」というお話がありましたが、うちの妹も知的障害を持っています。この避難所体験にも参加するよう誘ってはいますが、母は「だめだ」と言います。妹は警報のサイレンの音を聞くとパニックになってしまって、とてもその場にいられない状態になるので、最初に前触れのサイレンとして、知的障害者がパニックにならないような、ゆるいサイレンを鳴らせないかなと思いました。

今年は私たち以外にも子どもがいっぱい体育館に泊まってくれたので、嬉しかったです。

そういえば先日、「ママのための防災講座」を企画したのですが、そういうものがもっと増えていくといいと思います。私の周りにはうつ病の人がとても多くて、ただ避難所に行っただけでも気持ち悪くなってしまう人がたくさんいます。目に見える障害はもちろんですが、「見えない障害」に対しても、いろいろな配慮が必要になってくると思います。

本田

校区内の子どもたちがたくさんきて、よかったですね。プレイルームの設置もそうですが、さくらピアには簡易トイレ5つくらいあって、それをどこにおけばいいかも決めていない状況なので、専門の方が、「この建物だったらこれはここにおくといいよ」と指導してもらえるとありがたいです。

そして、知的、精神、内部などの見えない障害については、「書きたくない、知られたくない」というデリケートな部分もあり、何でもかんでも障害を書けとは言えないという問題も以前から出てきていますね。

それでは最後に、みなさんの意見を聞いて、あらためて講評者からご意見を伺いたいと思います。



松井(晴)

私は第1回目から6回目まで、この「まとめと講評」に出席しています。みなさんのご意見を聞かせていただいて、土曜日の昼からさまざまな訓練を体験し、いろいろなものが充実してきたと思います。

今後の課題としては、「訓練にも慣れてしまう」という話もありましたが、やはり出てくるのが、「**重度・軽度、見える・見えない**」の話があります。

「障害が見た目で分かると声がかげやすいが、分からないとダメ」という話は、地域でもしょっちゅう出てくる話です。民生委員も、分かっているれば大丈夫となりますが、例えば知的障害の軽度や内部障害だと、どうしていいのかわからない。その辺りが大きな課題かと思えます。

昨年は視覚障害の方が参加されていて、そのときは「何を伝えればいいのか分からない」との声がありましたが、やはり障害者の方、支援を必要とされる方が声を出さなければ、支援する側もどうしたらいいかわからない状況です。

そういった意味で、さくらピアの避難所体験に一般の方が参加しているのはとてもいいことだと考えています。訓練などを通じて、障害者と関わった経験のある方々が地域にいるのは心強いことです。

社会福祉協議会としても、ボランティア養成講座の修了式で必ず言わせていただくのは、「ボランティアとして活動していなくても、もし災害が起こり、障害者がいると分かれば、そこで活躍していただきたい」というようなことです。障害者に対する理解があれば、どんなときに、どんなふうに対処すればいいのかということも分かってきます。そういう人が地域でも増えていく必要があります。

8月末に南海トラフ巨大地震の被害想定が発表されました。豊橋にも相当数の避難所が開設されるでしょうし、**避難所での「配慮の視点」を持っている方が多ければ多いほど、障害の方が避難所に居やすくなります。**

福祉避難所は災害発生後2、3日後の開設されることになりますが、ラジオドラマで混乱する場面が描かれていたように、まさに実際の避難所では、障害のある人は弾き飛ばされる傾向にあるので、今回の体験はためになったと思います。

それと、**防災ラジオ**を持っている方はいますか？意外



と少ないですね。1,500円くらいで買えますし、勝手にスイッチが入って大きい声で話し出します。さきほど、障害のある人ほど情報が入りにくいという話もあったので、ぜひ購入をおすすめします。

木村

みなさんのお話を聞いて、大事なキーワードとして「気づき」というものがありました。あとでじっくりラジオのシナリオを見させていただきますが、それぞれのグループがそれぞれの障害についてシミュレーションをし、想像力を働かせて作ったんだなあと感じました。やはりこういう機会が与えられて、その場で考えることで、自分の身だけでなく相手の身になって考える疑似体験ができたと思います。

最近では、地域における防災の意識が飛躍的に高まってきており、例えば無線や非常食のチェックだけでなく、図上で体験するゲームなどの開催を希望するところが増えてきました。また、さくらピアではさまざまな工夫されてきたことと思いますが、そういう中から生の声を聴いて、行政として何ができるのか、考えていかなければと思っています。

とはいっても、みなさんのところすべてに役所の職員がいきるわけではありません。ですから、そこに集まった人たちが一番に運営を考え、いろいろなことに気づき、みんなのために、という意見を出せる方が必要になってくると感じています。二日間お疲れさまでした。

佐藤

私の感じたこと・考えたことですが、この地域には、遅かれ早かれ大災害が来ることは間違いありません。健康者も障害者も人それぞれの事情があり、家が壊れたら、否応なく避難所で生活していくしかありません。そういった非日常に放り込まれるのだと思います。

すべての人が余裕のない状況になったとしても、みなさんが共同で生活していくしかありません。ここに参加されている方は障害者に理解のある方が多いですが、実際の避難所ではそうでもないでしょうし、いろんな人がいます。その中でやっていくしかありません。

今回の避難所体験では参加対象を「どなたでも」と幅を広げられたそうですが、近所や子どもさん、一般の方を巻き込んだかたちで今年からスタートしたことは、方向性として非常にいいと思います。

今後は自治体も巻き込んで、より想定される現実



づけていく取り組みが必要かと思えます。障害福祉課としては、安否確認や、その後の支援の方法を検討している段階です。今後もみなさんのご意見を市政に取り入れていきたいと思っています。

山下

みなさん、いろんな意見ありがとうございました。今回で6回目の避難所体験ですが、みなさんも寝袋持ってきたり、準備万端で集まってくれています。

もし大きな災害があったときは、第1・第2避難所が開いて、その後開かれるのが福祉避難所ということになります。このさくらピアでいつも働いているのはこの職員ですが、福祉避難所になった場合、実際には市の避難所要員2名がこの会館を運営していくことになるわけです。

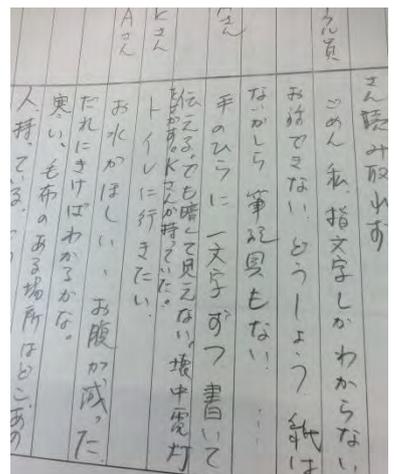
ですが、職員がいない中、避難所要員さんだけで、例えば「自家発電機が動いてどこの電気がつくか」などということは分からないだろうと思います。ですから、福祉避難所として指定された以上は、担当要員さんにも建物のことをよく知っていただきたいと思えます。

それから、松下さんの講演にも、「自助」の言葉がでてきていましたが、さきほど浅倉さんからも、「自分で名簿に記入するんだ」という発言もあってよかったです。

そして神戸市の方も言われたように、「障害のある人・ない人のマッチング」も、なるほどなと思いました。「必要なサポートを自分から発信することの大切さ」という話がありましたが、今日は手話通訳がいて、全て通訳していました。訓練だから準備ができていますが、訓練だからこそあえて通訳を設けずに、壁によるんだとかしゃがむんだとか、「負荷をかける」という言葉もありましたが、まわりにいる健常側の人間も障害者とともに体験していくという方向で開催していきたいと思えます。さくらピアの職員も来年に向けて準備していきますが、この時間内に言い切れなかったことについては、また直接、事務所までアドバイス頂ければと思えます。

本田

「防災ラジオドラマ」は、受付での会話を想像して役割を作り、まわりの人のことを考えられるように企画しましたが、和気あいあいと取り組まれていたのが、とても印象に残りました。今後、清書してコンテストに応募するなどして活用していきたいと思えます。関係者の方々、よろしくお願ひします。



みなさま、二日間本当にお疲れさまでした。

考 察

避難所体験企画責任者

さくらピア事務長 本田栄子

準備

過去5年間の避難所体験は、まず豊障連の会員はじめ、障害者当事者自身の防災意識の高揚に重きを置いた。後半の2年間で冊子「さくらピア避難所体験の取り組み」の発行、防災まちづくり大賞への応募で外部に実績を発信したところ、総務大臣賞受賞、そして26年防災功労者内閣総理大臣賞受賞等、関係機関からは最高の評価をしていただいた。しかし豊橋市の防災施策や市民意識に「障害者への配慮を」という観点で見ると、課題は山積している。今後の5年間は、さくらピア避難所体験の実績をより地域に発信し地域の中で障害者の防災も考えていける豊橋市になることを願っている。

それで今まで参加対象者を「障害者とその家族、関係者」としていたが「どなたでも」とした。地域に回覧板を回していただいた。



講演「地域防災と障害者」

地域に関係のある話題をとということで、消防団長の松下氏を迎えてお話ししていただいた。消防署と消防団の違い、活動内容などは知らない人が多く、良いテーマだったと思う。地域の消防団の方も見に来てくれたので、今後も参考にしたい。

車いすダンスSHOW&逃げましょう！

行事開催中の避難ということで車いすダンスを見ていただいた。一般の参加者は見るのがはじめての方が多く、アンケートを見てとても好評だった。拡声器を準備していたが、実質的にはこの広さなら肉声で移動しながら何度も呼びかけた方が効果的だと思われる。また、聴覚障害者のために身振りで誘導すること、視覚障害者への声かけのコツなど具体的なポイントを今後学ぶ機会を作っていきたい。初期消火訓練も車いすの方も参加していただいた。片手の障害の方より「片手で操作できる消火器があれば紹介して欲しい」との意見があった。次回の訓練時までに関係機関に問い合わせることとする。



防災グッズ展示コーナー

煙体験ハウスと災害用テント、車いす用簡易トイレ、防災VC活動報告、ダンボールトイレ、ダンボールベッドの展示をした。市の様々なイベントで同様の展示がされているが障害者はなかなか人ごみの中に行く機会が少ないのでやはりさくらピアでゆっくり見られる時間を作る必要があると思った。

防災ラジオドラマを作ってみよう

予想以上に盛り上がり、アンケートをみても好評だった。障害当事者が発言しているので、臨場感にあふれたシナリオができた。作成の過程での意見交換も活発に行われた。発表もそれぞれのグループで特徴があり興味深かった。聴覚障害のグループは筆談やジェスチャーでの会話になるのでラジオドラマ向きではないが、会場での参加者の反応がとてもよく研修などに活用できる方法を探りたい。またFMとよはしより協力の申し出をいただいた。市民への啓発に役立ていけるように具体的に話をすすめたい。こちらからお願いしようと思っていたが、FMの方から声をかけていただき嬉しかった。関係団体につなげたい。またコンテストにも応募し広く障害当事者のことを伝えたい。



体育館宿泊体験

小学生以下の宿泊が10人あり全体の参加者数も昨年より12人増えた。参加条件を「どなたでも」として、40代の若い親が子供と一緒に参加してくれたのが特徴的だった。場所決めや片付けを職員の指示に頼らず参加者で相談してやってもらった。なかなか寝付けぬ幼児は別室に行くなど、親が苦労する一面もあった。普段から会館で活動している知的障害者は安心感があり障害は重度でも落ち着いて待っていられることがわかっている。



非常食試食

みそ汁の材料は農協とくくむガーデンからいただいた。女性陣が手際よく協力し合って準備ができた。小学生も非常食の袋をあけスプーンと乾燥剤を出し、梅ふりかけをいれる作業を手分けして手伝った。おにぎりも短い時間で流れ作業でたくさんつくることができた。

まとめと講評

「気づき」という言葉が多く聞かれた。この体験での気づきを共有し、発信し、実践につなげる、そして施策の充実を後押しすることができるようにしなければならない。特に防災ラジオドラマが好評だったので、さくらピアだけで完結することなく、各団体の行事や市民防災の分野への提言となるよう事後報告をしっかりとしたい。



課題と今後に向けて

国からは内閣総理大臣表彰と言う形で評価をいただいたものの、それが豊橋市の障害者防災施策の充実に貢献していけるかどうかで避難所体験会の真価が問われる。「いい体験になった」という自己満足で終わらせず、常に具体的な動きを小さくてもいいから一つ一つ実行していきたい。

- ★ 体育館から利用者を避難誘導する際、マイクを取りに行くよりも大きな声で身振りをつけて誘導する方法、視覚障害者に対してわかりやすい指示（そっちはあぶないではなく右側はあぶないと言うように）をするなどの方法を学ぶ場をつくる。
- ★ 半身不自由の人でも片手で使える消火器について紹介して欲しいとの意見があったので、危機管理課を通して消火器のユニバーサルデザインについて検討していく。（2月の消防訓練の時に紹介できるように）
- ★ 防災ラジオドラマコンテストへの応募のほか、シナリオをFMとよはしや各関係機関で活用できる形にしていく。
- ★ 総務大臣賞、内閣総理大臣賞表彰をきっかけに知り合った団体と連絡をとりあい情報交換し他市の施策から学ぶ。すでに四日市市とは交流をはじめているが、肢体不自由児者父母の会の全国大会等でも紹介していただいた縁も今後につなげたい。
- ★ 避難所要員の方には施設の開場方法備品の場所、部屋の配置など具体的な情報を知ってもらって有事の際にはスムーズに業務遂行ができるように準備していただくためにまず基本情報を書面化して要員に渡して情報を共有する。
- ★ 現在5つある車いす用簡易トイレの設置場所について、具体的な指示を決めて欲しい。
- ★ 防災絵カードの収納場所を聴覚障害者団体に周知しておき避難所になった際、職員がいなくても自分たちで利用できるように準備してもらおう。
- ★ 今まで避難所開設時の職員の勤務体制や、給与保障について考えたことが無かったが、施設職員に対する市の基本姿勢を確認する必要がある。

御岳噴火の犠牲になられた方々に心からお見舞い申し上げます。聴覚障害者2名の犠牲を含め現地には他にも障害者の方もいたかもしれません。このまとめを書いている10月5日は台風18号接近のために豊橋市内全避難所が開設されたとの連絡が入っています。私たちの日常も非日常も人とのつながりなくしては成り立ちません。避難所体験の気づきの共有が災害時の「配慮」を少しでも的確であたたかいなものにできるようこれからもさくらピアの避難所体験を充実させていきます。

豊障連を内閣総理大臣表彰

岩田校区連絡協会は
防災担当大臣から
防災推進に尽力

豊橋で初の受賞



防災推進に功績が
あったとして、豊橋
市の豊橋障害者(児)
区防災会連絡協議会

が防災担当大臣の各
表彰を受賞した。表
彰式は防災担当大臣
が2日にあり、内閣
総理大臣は10日に総
理大臣官邸で行われ
る。豊橋市内で同賞
の受賞はいずれも初
めて。

豊橋障害者(児)団
体連絡協議会(山下
徹会長)は、20
09(平成21)年度
に豊橋市障害者福祉
会館(さくらピア)
の指定管理に伴い、
豊橋障害者(児)団
体連絡協議会の避難
所体験

さまざまな障害者防
災啓発活動を継続的
に実施。
特に過去5年間開
く「さくらピア避難
所体験」は、障害者
が自ら主役となり、
福祉避難所宿泊体
験、障害種別ごとの
討論など、障害者施
設としての特性をい
かした実践的な防災
訓練で、ことし1月
には防災まちづくり
大賞総務大臣賞を受
けている。

東日本大震災に関
連しても、追悼セレ
モニーや障害者の防
災を考える集いを開

き、「要支援者防災」
の必要性を訴えるな
ど、障害者を取り巻
く地域の防災力向上
に大きく貢献したこ
とが認められた。

さくらピア事務長
の本田栄子さんは
「各方面の防災事業
に障害者を組み入れ
てもらったのが私たち
の願い。最近は少し
ずつ実感もあり、苦
労して宿泊体験に取
り組む参加者の皆さ
んには感謝してい
る」と受賞を喜んだ。

岩田校区防災会連
絡協議会(青木哲夫
会長)は、地域住民
が集まる運動会で、
担架搬送やバケツリ
レーを取り入れ、住
民参加型訓練を継
続。
さらに訓練参加者
の拡大を図るため、
毎月の回覧で周知す

るほか、同協議会の
取り組みをホームペ
ージに掲載して参加
者の拡充に成果をあ
げている。

外国人が多く居住
する地域特性も考慮
し、ホームページに
外国人表記を付して
いるほか、日系ブラ
ジル人らとの協働訓
練も実施。幅広い防
災啓発が認められ

た。
市防災危機管理課
は「各校区にある自
主防災組織も手本に
してもらい、意識が
さらに広がるにつか
けになれば」と話し
ている。

本年の内閣総理大
臣表彰は4個人36団
体、防災担当大臣表
彰は11個人7団体が
受けた。(勝村誠之

平成 26 年 9 月 3 日
東愛知新聞

防災功労者

豊障連に総理大臣賞

豊橋市内初 障害者防災の取り組み評価

豊橋障害者（児）団体連合協議会は、今年度の防災功労者内閣総理大臣表彰を受けることが決まった。障害者の防災を世間に知らせる契機になると関係者は喜ぶ。豊橋市内からの受賞は初。

全国で4人と36団体が選ばれた。愛知県内で唯一表彰される同協議会は過去5年にわたり、豊橋市東新町の市障害者福祉会館さくらピアで避難生活を想定した宿泊体験を企画する

など、障害者にとっての防災のあり方を考える取り組みを続けている。功績が認められ、今年2月には防災まちづくり大賞（総務大臣賞）を受賞した。

事務長は「国に評価してもらい、障害者の防災を広く知ってもらう機会になるのはうれしい」と話している。

豊橋市消防団の松下直弘団長の講演をはじめ、車椅子ダンスショーの最中に災害が起きたと想定し避難訓練を行う。避難所の障害者「をテーマにラジオドラマ用のシナリオ作りにも初めて挑戦する。

参加無料。定員200人。申し込みは同会館 電話0532(53)3153

で受け付けている。

市内初の担当大臣表彰

岩田校区防災会 連絡協議会も



避難生活を想定した宿泊体験

また今年度の防災功労者防災担当大臣表彰に、豊橋市内から初めて岩田校区防災

会連絡協議会が選ばれた。全国で11人と7団体、県内から1人と2団体が受けた。

同協議会は、校区の運動会に防災訓練の要素を加味した競技を取り入れるなど、住民が訓練に参加しやすくなるよう工夫を凝らし、参加者は3年間で1・5倍に増えた。

活動が評価され、過去には豊橋市から防災関係表彰感謝状を贈られ、県の防災表彰貢献団体表彰も受けている。

(中嶋真吾)

平成 26 年
9 月 5 日
東日新聞



障害者の避難のためのリュックを紹介する本田事務長＝豊橋市で

障害者避難の 取り組み報告

豊橋

○…豊橋市障害者福祉会館さくらピア（東新町）では、本田栄子事務長が障害者避難所体験の取り組みを報告した。七日まで市内であった全国肢体不自由児者父母の会連合会の全国大会に合わせた催し。

さくらピアは災害時の福祉避難所に指定されており、二〇〇九年から年一回、障害者や地域住民らを募って避難訓練や応急手当で講座、体育館での宿泊体験を実施。障害者自身による防災活動が評価され今年、消防庁の「防災まちづくり大賞」総務大臣賞を受賞した。

本田さんは障害名や町名を記入できるリュックなど避難の工夫を紹介し「プライバシーは課題だが、障害があることやニーズを発信しないと理解が得られない」と強調。地域との連携の重要性を語り「地元の大学生や自衛隊員を講師に招くことで、理解や協力が期待できる」と述べた。

平成 26 年 9 月 8 日 中日新聞

豊障連

障がい者と支援者 一緒に避難所体験

防災意識高揚、参加者募る

豊橋障害者（児）団体連合協議会（山下徹代表）は27、28の両日、豊橋市障害者福祉会館「さくらピア」で行う災害に備えた避難所体験の参加者を募集している。

障害者とその家族、一般市民などが対象。

27日は、豊橋市消防団の地域防災に関する講演と避難訓練（27日午後1時半～）、防災ラジオリマ作り（同日午後6時～）、宿泊体験と非常食試食（同日午後9時～）。28日は、まごめと講評（28

日午前9時半～）で、災害時の心構えを身につける。希望により部分参加ができ、いずれも障がい者と支援者が一緒に体験する。

参加無料で定員200人。申し込みはさくらピア（053・2・53・3153）へ。

（榊原菜月）

平成 26 年 9 月 2 日
東愛知新聞

障害者の命と安全確保

家族や関係者ら
「避難所体験」

訓練など通じ災害時対応模索

豊橋・さくらピア



豊橋市障害者福祉会館「さくらピア」で27日、「避難所体験」が始まった。28日まで、福祉避難所である同館で、障害当事者や家族、県内外の行政・福祉関係者、近隣住民らが避難訓練や宿泊体験などをを行い避難生活を検証する。

同館指定管理者の「豊橋障害者（児）団体連合協議会」（豊障連、山下徹会長）主催、豊橋市共催で、東愛知新聞社など後援。同体験は今年で6回目。障害当事者が主体となった継続的な防災啓発事業への取り組みが評価され、「第18回防災大臣賞」「防災功労者内閣総理大臣表彰」の栄誉にも輝いた。

今回は延べ約300人が参加。山下会長が「助け合いながらいろいろ学び、体験したことが、災害時に大変有効になる」とあいさつ。

本田栄子・さくらピア事務長が大臣賞受賞の報告を行ったあと、市消防団長で岩崎学園理事長を務める松下直弘さんが「地域防災と障害者」について講演した。続いて「車いすダンス&逃げまじょう！」を実施。日本車いすダンススポーツ連盟名古屋支部豊橋サークルがダンスを披露。終盤に差し掛かった頃、訓練放送に伴いダンスを中断、同館前の公園に避難し、園内で初期

消火訓練を行った。今回、初の試みとして「防災ラジオドラマ」制作にも挑戦。8班に分かれ、障害当事者の立場から会話を想像し、皆で脚本を書き上げた。

参加者は館内で1泊、翌28日には講習を行う。（田中博子）

豊橋市前田中町2の14
佐々木繊維株式会社
0532-534141

平成 26 年 9 月 28 日
東愛知新聞

「避難所体験報告書」は
さくらピアホームページからでも
ご覧いただけます。

URL

<http://hosyoren.jp/sakurapia/>

 さくらピア (豊橋市障害者福祉会館) 

〒440-0812 豊橋市東新町15番地

TEL：(0532) 53-3153 FAX：(0532) 53-3200

E-mail：sakurapia@hosyoren.jp HP：http://hosyoren.jp/sakurapia/

開館：午前9時～午後9時 休館：月曜日、祝日（月曜日が祝日の場合は翌日）